

令和6年度 事業報告

令和6年4月1日から

令和7年3月31日まで

事業概要	1
1 法人の概況	2
(1) 設立年月日等	
(2) 定款に定める目的	
(3) 定款に定める事業内容	
(4) 役員等に関する事項	
(5) 会議の開催状況	
2 事業の実施状況	5
【公益目的事業】	
公1 産業技術支援事業	5
1 人材育成	
(1) 研修指導事業	
(2) 技術者研修助成事業	
2 企業等の技術力向上支援	
(1) 研究開発助成事業	
(2) 財団活動 PR 事業	
公2 高度技術研究開発等推進事業	7
1 技術研究開発	
(1) 高度技術開発・応用研究事業	
(2) 起業化支援研究等推進事業	
(3) シーズ活用支援事業	
(4) 共同研究開発事業	
(5) 研究開発プロジェクト事業	
(6) 技術研究開発成果フォローアップ事業	
2 北海道立工業技術センター運営管理	
(1) 北海道立工業技術センター指定管理者事業	
(2) 維持管理事業・維持運営事業	
(3) 試験分析事業	
(4) 技術相談事業	
(5) 研修事業	
(6) 技術情報提供事業	
(7) 広報等事業	

公3 地域産業活性化支援事業 1 1

1 中小企業等支援

(1) 市場販路開拓等事業

2 函館市産業支援センター運営管理

(1) 函館市産業支援センター指定管理者事業

(2) 産業支援センター財団独自事業

3 起業者への育成・支援

(1) 起業化促進事業

4 地域産業活性化

(1) 広域的産業立地支援事業

【収益等事業】

収1 受託等事業 1 8

(1) 受託研究開発事業

(2) その他受託事業

(3) 知的財産活用促進事業

財団運営課題について 1 9

事業概要

日本経済は、海外における紛争などの長期化、米政権の関税政策の影響により、不透明感が増しているなかで、エネルギー・食料価格の高騰、物価上昇など世界的に不確実な状況が続いております。函館地域の景気は、特に観光について円安による外国人観光客が大幅に増加するなど、全体として緩やかに回復している状態にあります。

令和4年度に始まった内閣府の地方大学・地域産業創生交付金事業の函館マリカルチャープロジェクトは、キングサーモンとマコンプの完全養殖やその事業化に向けて順調に進んでおり、その中で当財団ではマコンプの加工利用を中心に、函館市、北大などと連携しながら鋭意研究開発に取り組んでいます。

こうした社会経済環境のもと、「様々な地域資源と地域の英知を集めて活用し、持続的な産業振興を図る」ことを、中・長期的な基本方針として数多くの取組みを進めて参りました。

また、北海道立工業技術センターでは試験研究用機器の更新が順調に進んでおり、北海道や函館地域からの補助研究開発事業に継続して取り組んでいるほか、内閣府、農林水産省、日本学術振興会や日本中央競馬会、北海道の外部資金事業に継続して取り組みました。以下、令和6年度の事業重点項目に沿って、当財団の活動概況を報告いたします。

事業重点項目1 工業技術センターの利用促進による地域企業の技術力向上

令和6年度の工業技術センター研究成果発表会は6月に開催し、関係者を含め117名の参加があり、AIと魚眼カメラを用いた屋外照明の対話制御システムの試作、魚の健康診断システムの研究、国産乳酸菌スターターの開発とその活用によるチーズの高付加価値化、養殖キタムラサキウニの加工技術に関する研究、におい分析技術を利用したコンブの高品質化への取組について発表したほか、成果品やパネルの展示により、財団が持つ技術シーズの情報発信を行いました。

事業重点項目2 地域のGX・DX推進のための技術支援

地域企業が行う高度技術や新製品の開発に対して、その経費の一部を助成する研究開発助成事業で2社に助成するとともに、地域企業の技術の高度化を目的に3Dの設計解析等に係るデータ活用、食品の添加物・アレルギー、衛生管理、味や香りといった品質評価に関するものをテーマとした技術研修を5回開催したほか、技術者研修助成事業として、1件助成しました。

事業重点項目3 新規創業等に対する支援の継続

地域企業の販路開拓支援として、出店事業や出店助成事業、デザイン支援事業に取り組むとともに、創業支援として、「創業スキルアップ講座」を8回、「ビジネスプラン作成スクール」を11回、「新規事業セミナー」、「創業支援セミナー」を開催したほか、「創業バックアップ助成金事業」では函館市枠で2件、北斗市枠で1件採択し、合計3,000千円の助成金を決定しました。

また、函館市、北斗市、七飯町および関係団体で組織する「函館地域経済牽引事業促進協議会」における活動として東京、名古屋において函館地域における優位性をPRしました。



1 法人の概況

(1) 設立年月日等

昭和59年 4月 3日 財団法人テクノポリス函館技術振興協会として設立
 平成13年 4月 1日 財団法人函館地域産業振興財団に名称変更
 平成23年 3月25日 北海道知事から公益財団法人への移行認定通知
 平成23年 4月 1日 公益財団法人函館地域産業振興財団に移行

(2) 定款に定める目的

この法人は、函館地域の高度技術に立脚した産業開発を促進し、もって北海道の産業経済の発展に寄与することを目的とする。

(3) 定款に定める事業内容

- ① 高度技術の開発又は利用に関し、事業を営む者又はその従業員に対して研修又は指導を行うこと。
- ② 高度技術に立脚した産業開発を促進するために必要な施設の整備に係る調査研究を行うこと。
- ③ 高度技術に立脚した産業開発を促進するために必要な啓発を行うこと。
- ④ 企業等が高度技術の開発を行い、又は高度技術の製品の開発に利用するために必要な資金について助成を行うこと。
- ⑤ 高度技術の開発を行い、及びその成果を普及すること。
- ⑥ 北海道立工業技術センターの維持運営事業を行うこと。
- ⑦ 技術シーズの起業化を促進するために必要な事業を行うこと。
- ⑧ 北海道立工業技術センターの指定管理者事業を行うこと。
- ⑨ 函館市産業支援センターの指定管理者事業を行うこと。
- ⑩ その他この法人の目的を達成するために必要な事業を行うこと。

(4) 役員等に関する事項

専務理事が令和6年3月31日をもって辞任したことから、当面の間、副理事長が事務取扱をすることとした。

また、理事、監事及び評議員について、所属団体等における令和6年度中の人事異動に伴い辞任届の提出があり、評議員会において後任者を選任した。令和7年3月31日時点の理事、監事及び評議員は次のとおりである。

【理事会】

役 職	氏 名	現 職
理事長（代表理事）	久保 俊幸	函館商工会議所 会頭
副理事長（業務執行理事）	安井 肇	北海道立工業技術センター センター長
理 事	三浦 正彦	北海道渡島総合振興局 産業振興部地域産業担当部長
理 事	氣田 聖大	函館市 経済部長
理 事	楠川 修	北斗市 経済部長
理 事	岩上 剛	七飯町 商工労働観光課長
理 事	浜出 雄一	(株)東和電機製作所 会長
理 事	吉村 健太郎	函館特産食品工業協同組合 副理事長
理 事	菅 育正	(株)菅製作所 代表取締役社長
理 事	藤原 鉄弥	(株)フジワラ 代表取締役
理 事	工藤 英洋	日乃出食品(株) 代表取締役社長
理 事	千葉 仁	(株)天狗堂宝船 代表取締役
監 事	今木 賢人	(株)北洋銀行 執行役員 函館中央支店長兼末広町支店長
監 事	谷口 諭	函館商工会議所 専務理事

【評議員会】

役職	氏名	現職
評議員	西本 研一	北海道渡島総合振興局 副局長
評議員	田畑 浩文	函館市 副市長
評議員	工藤 実	北斗市 副市長
評議員	工藤 稔	七飯町 副町長
評議員	都木 靖彰	北海道大学大学院 水産科学研究院長 大学院水産科学院長 水産学部長
評議員	鈴木 恵二	公立ほこだて未来大学 理事長兼学長
評議員	阿部 恵	函館工業高等専門学校 校長
評議員	村瀬 充	函館商工会議所 副会頭
評議員	古伏脇 隆二	函館特産食品工業協同組合 理事長
評議員	中村 信吾	北海道電力ネットワーク(株) 道南統括支店長
評議員	齋藤 洋一	函館どつく(株) 取締役常務執行役員 函館造船所長
評議員	伊関 一男	太平洋セメント(株) 上磯工場長
評議員	堀井 伸一	(株)日本政策金融公庫 函館支店長

(5) 会議の開催状況(評議員会、理事会、技術審査委員会、地域技術選定委員会)

開催日/場所	議事事項	結果
みなし決議による理事会(第1回定例理事会)		
令和6年5月29日 (みなし決議)	[報告事項] ① 職務執行状況に係る報告について [決議事項] ① 令和5年度事業報告について ② 令和5年度計算書類、附属明細書及び財産目録等について ③ 評議員会に提案する役員候補者について ④ 評議員会の開催に関する事項について ⑤ 令和6年度事業計画の一部変更について ⑥ 令和6年度収支予算の補正について ⑦ 幹部職員の任免について	全ての議案について、原案のとおり可決した。
みなし決議による理事会		
令和6年6月21日 (みなし決議)	① 評議員会に提案する評議員候補者について	議案について、原案のとおり可決した。
定時評議員会		
令和6年6月24日 北海道立工業技術センター会議室	① 令和5年度事業報告並びに計算書類、附属明細書及び財産目録等の承認について ② 役員の辞任及び選任について ③ 評議員の辞任及び選任について	全ての議案について、原案のとおり可決した。
技術審査委員会		
令和6年7月2日 北海道立工業技術センター会議室	令和6年度研究開発助成事業 2件の審査	申請どおりの助成額にて決定した。

第2回定例理事会		
令和7年3月28日 北海道立工業技術 センター会議室	<p>[報告事項]</p> <p>① 職務執行状況に係る報告について</p> <p>[決議事項]</p> <p>① 令和6年度収支予算の補正について</p> <p>② 諸規程の一部改正について</p> <p>③ 令和7年度資金運用執行方針及び運用計画について</p> <p>④ 令和7年度事業計画について</p> <p>⑤ 令和7年度収支予算について</p> <p>⑥ 令和7年度運営資金借入限度額、資金調達及び設備投資の見込みについて</p> <p>⑦ 評議員会に提案する評議員候補者について</p> <p>⑧ 評議員会に提案する役員候補者について</p> <p>⑨ 評議員会の開催に関する事項について</p> <p>⑩ 役員等賠償責任保険契約について</p> <p>⑪ 損害賠償に係る対応について</p>	<p>全ての議案について、原案のとおり可決した。</p>
みなし決議による評議員会		
令和7年3月31日 (みなし決議)	<p>① 評議員の辞任及び選任について</p> <p>② 役員の選任について</p>	<p>全ての議案について、原案のとおり可決した。</p>

2 事業の実施状況

【公益目的事業】

公1 産業技術支援事業

1 人材育成

(1) 研修指導事業

地域企業の高度技術の開発・利用を促進するため、企業の経営者・技術者等に対し、下記のとおり産業技術研修や指導・助言等を行った。

① 産業技術研修

	テーマ等	実施日	実施場所	講師等	参加人数
1	HACCPの基礎とプラン作成演習について	令和6年7月30日	北海道立工業技術センター会議室	旭川食品産業支援センターセンター長 浅野 行蔵 氏	18名
2	味香り分析セミナー	令和6年9月12日	北海道立工業技術センター会議室	ユーロフィンQKEN(株) コンサルティング部 おいしさコンサルティンググループ マネージャー 肥田 崇 氏	21名
3	農水産加工製品の品質保持・向上に向けた食品添加物の有効活用と食品アレルギー対策	令和6年10月8日	北海道立工業技術センター会議室	サンダイヤ(株) 開発部 野田 達也 氏 (株) 森永生科学研究所 営業部 倉田 貴生 氏	22名
4	3Dデータ活用セミナー 3D設計解析システムについて	令和6年10月24日	北海道立工業技術センター研修室	(株) 大塚商会 土居 一広 氏	16名
5	3Dデータ活用セミナー 3Dプリント支援ソフトウェアについて	令和6年10月24日	北海道立工業技術センター研修室	マテリアライズジャパン(株) スネル 芽里奈 氏	16名

② 技術コンサルティング事業

申込み実績なし

③ 研修生受入れ

受入れなし

(2) 技術者研修助成事業

地域企業の技術者等を中小企業大学校に派遣して研修を行わせるために要する経費の一部助成を行った。

助成件数 1件3名

2 企業等の技術力向上支援

(1) 研究開発助成事業

高度技術の開発促進や高度技術を利用する企業の育成のため、次の2件について助成した。

企業名	研究開発テーマ名	助成額
エスイーシー・シープレックス(株)	海面養殖事業者向け海中リチウム電池の研究開発	2,031千円
(一社) Local Revolution	近海産マイワシを活用した魚醤商品の研究開発	500千円

(2) 財団活動PR事業

財団の支援制度や北海道立工業技術センターの各種事業のPRと利用を促進するため、次の事業を実施した。

区分	事業内容等
研究成果等のPR活動	<ul style="list-style-type: none"> ・渡島、檜山管内の自治体、商工団体、企業に、北海道立工業技術センターの利用促進を図るため訪問し、PRを兼ね情報交換を行なった。 ・渡島西部4町商工会(木古内町、知内町、福島町、松前町)の経営指導員を招き、工業技術センター勉強・視察会を実施した。 実施日：令和6年11月29日
	北洋銀行ものづくりサスティナフェア2024に出展し、北海道立工業技術センター事業の成果品や財団の支援を受けた企業の製品等を展示し、PRを行った。 開催日：令和6年7月24日 会場：アクセスサッポロ
	以下の展示会・イベント等に北海道立工業技術センターブースを設け、研究成果を公表した。 第38回北海道技術ビジネス交流会(ビジネスEXP02024) 開催日：令和6年11月7日・8日 会場：アクセスサッポロ
財団WEBサイトの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・財団HPを適時更新して各種セミナー・イベントをPRした。 ・「頑張ってる企業紹介」WEBサイトの更新を行った。(更新5社、新規追加1社、紹介企業数36社)
メールマガジンの発行	財団・北海道立工業技術センター、関連する機関の情報を発信 発行回数：16回

公2 高度技術研究開発等推進事業

1 技術研究開発

(1) 高度技術開発・応用研究事業

地域のニーズに根ざした次の10テーマについて研究開発を行った。

- ① 地域製造業向けオープンソースロボットハンドモデルに関する研究 (R5～R7)
- ② 画像処理技術を用いた生産情報のデジタル化手法に関する技術開発 (R4～R6)
- ③ 地域製造業向けIoTのヒューマンインタラクションに関する研究 (R5～R8)
- ④ 急速凍結材料の解凍技術に関する調査研究 (R6)
- ⑤ スパッタ法を用いた薄膜作製技術に関する研究 (R6～R7)
- ⑥ 相対湿度制御した効率的な乾燥装置技術に関する研究開発 (R5～R7)
- ⑦ 地域新規多獲性魚種の利用加工に関する研究開発 (R4～R6)
- ⑧ 海藻成分を利用した油脂素材の製造技術開発 (R5～R7)
- ⑨ レトルト殺菌技術を応用した冷蔵食品の開発に関する研究 (R5～R7)
- ⑩ 道南地域の果実加工残渣の食品利用法開発に関する研究 (R6～R8)

(2) 起業化支援研究等推進事業

道内企業等の新分野参入や起業化を支援するため、研究課題の企画調整及び関係機関との連絡調整を行った。

連携協定による研究交流実績：13件、人材交流：48人、研究施設利用：延べ43日間

(3) シーズ活用支援事業

工業技術センターや大学等の技術シーズを事業に活用する可能性の見極めや、地域企業等の製品開発初期段階の課題解決を行い、新製品開発や新事業創出につなげることを目標としていたが、本年度の実績はなかった。

(4) 共同研究開発事業

企業等における研究開発や新製品の開発を促進するため、共同研究を実施した。

- ・令和6年度実績 10件 (内令和5年度から継続1件)

	課題名
1	豆漬けの保存性向上に関する研究
2	ホタテガイの呈味に関する研究
3	秋から冬に行うキタムラサキウニの養殖技術開発
4	藻礁用海藻種苗固定具の実用評価試験および形状検証
5	AIと魚眼カメラを用いた屋外照明の対話制御技術に係る研究開発 (R5～6 実施)
6	近海産マイワシを活用した魚醤製品の開発に係る研究
7	養殖ホッケの高品質化を目的とした給餌システムの開発に係る研究
8	K値による魚の熟成・鮮度の評価
9	自社製品の収益性向上に向けた製造条件の構築に関する研究
10	鉛蓄電池の性能試験評価

(5) 研究開発プロジェクト事業

① 日本中央競馬会畜産振興事業 (R6～R7)

公益財団法人日本中央競馬会の助成事業であり、国産乳製品の国際競争力強化を目的として、輸入チーズとの差別化・優位性を訴求した国産チーズの開発・普及を図るため、「国産チーズ・ブランド化事業」のテーマで事業を実施した。

② 科学研究費助成事業 (基盤研究B) (R3～R6)

日本学術振興会より助成を受けて実施した事業であり、次世代に対応できる魚類の生体計測に

向けて、生体内情報の可視化、計測、伝達を可能とするスマートバイオセンシングシステムを創出するため、QRコードを用いた情報通信システムの設計・製作と魚体への装着及びスマートバイオセンシングシステムの検証と評価を行った。

③ オープンイノベーション研究・実用化推進事業（R6～R10）

農林水産省の生研支援センターによる委託事業であり、将来の農林水産・食品分野での社会実装を目的とした革新的な研究シーズを創出する基礎研究や、基礎研究等の成果を社会実装するための実用化段階の研究開発を支援している。本年度は「輸出促進を目指した生鮮水産物の品質制御と鮮度の“見える化”技術の実用化」について実施した。

④ 函館マリカルチャープロジェクト（地方大学・地域産業創生交付金事業）（R4～R8）

内閣府が実施する交付金事業であり、函館市が主体となり、北海道大学を中心とする研究機関、企業、漁業者等が連携して行う。当財団では、生産量日本一のマコンプを対象とし、ゲノム情報によるブランド種苗管理技術の構築、ローカーボン型スマート乾燥システムの開発、生コンブの利用加工特性に関する研究開発、コンブ特有のにおいを解明・制御するための研究開発、マコンプからの新規中間素材の開発等を実施した。

⑤ 地域企業の先端技術人材確保・育成等支援事業（R4～R6）

北海道の補助事業であり、地域企業に対し、技術支援コーディネーター（財団研究員・職員）による基盤技術の高度化、製品化研究、製品改良、生産工程・設備保全技術の改善・効率化等の生産性の向上及び人材確保等に関するニーズや課題の把握、改善に向けたマネジメントを行い、またこれらの課題解決に向けて技術支援等を実施した。

（6） 技術研究開発成果フォローアップ事業

① 研究開発成果フォローアップ事業

これまでに蓄積された北海道立工業技術センターの研究開発成果や受託・共同研究開発成果のフォローアップ、知的財産出願等の促進及び研究員の資質向上を図った。

2 北海道立工業技術センター運営管理

（1） 北海道立工業技術センター指定管理者事業

北海道から指定管理者の指定を受けて、施設設備の維持管理、会議室・研修室及び試験分析機器の貸出業務、見学者・来客者への対応等を行った。

- ・施設の使用件数 49件
- ・試験分析機器の使用件数 154件 計203件

（2） 維持管理事業・維持運営事業

北海道立工業技術センターの試験研究機器修繕等の維持管理を行った。

（3） 試験分析事業

地域企業等からの依頼を受けて、元素分析や食品の微生物検査等の各種試験分析を実施した。

- ・依頼試験・分析件数 144件

（4） 技術相談事業

企業等の実施する新製品開発・製造工程等の技術的課題等を解決するための技術相談を行った。

① 個別技術相談

地域企業等から技術的な課題等について相談を受け、助言した。

- ・相談件数 524件

② 巡回技術相談

地域企業の技術向上を図るため、北海道立工業技術センター研究員が生産現場を巡回し、企業が当面している技術的な課題について相談を受け、助言した。

- ・相談件数 2件

(5) 研修事業

研究開発の成果や新技術の普及を図るため、研究成果発表会や研修会を開催した。

① 北海道立工業技術センター研究成果発表会

令和5年度までに実施してきた研究成果等について、口頭発表およびパネル展示形式で以下のとおり研究成果発表会を開催した。

開催概要	
名 称	北海道立工業技術センター研究成果発表会
日 時	令和6年6月20日(木) 14:00~17:00 (交流会 17:30~19:00)
会 場	プレミアムホテル - CABIN PRESIDENT-函館
参加人数	117名 (内関係者28名)
口頭発表 テーマ	発表者
1	AIと魚眼カメラを用いた屋外照明の対話制御システムの試作 ものづくり支援グループ 研究主査 松本陽斗
2	魚の健康診断システムの研究 ものづくり支援グループ 研究主査 村田政隆
3	国産乳酸菌スターターの開発とその活用によるチーズの高付加価値化 食産業支援グループ 専門研究員 大坪雅史
4	養殖キタムラサキウニの加工技術に関する研究 食産業支援グループ 研究員 三上大輔
5	におい分析技術を利用したコンブの高品質化への取組 函館マリカルプロ推進室 研究主査 鳥海滋
パネル展示 テーマ	
ものづくり支援 グループ 8件	マスク型呼気ガス分析装置の実現に向けた要素技術開発
	食品用液体凍結機・解凍機の開発
	EL 蛍光粒子表面へのスパッタ成膜技術
	伝熱特性測定装置の開発
	AIと魚眼カメラを用いた照明制御技術
	小規模生産に対応したロボットハンドリング技術の取り組み紹介
	北海道 AI・IoT オープンイノベーション・プラットフォーム構築事業
	食料品製造業向け F 値ロガーの開発
食産業支援 グループ 6件	ワイヤレス型温度ロガーを活用した開発商品
	国産乳酸菌スターターの開発とその活用によるチーズの高付加価値化
	ケルセチンとルチンを機能性成分とするダツタンソバ商品の開発
	海藻フコキサンチンの利用と加工
	スーパーチリングによるブリ肉の鮮度保持効果
	生鮮水産物の鮮度の可視化と高鮮度輸送技術の開発
函館マリカルプロ 推進室 5件	次世代対応ローカーボン型コンブ乾燥システムの技術開発
	乾燥コンブの湿度加工によるコンブだし風味制御に関する研究開発
	生コンブの加工利用特性に関する研究開発
	海藻のにおい制御のための技術開発
関係機関 1件	昆布の機能性の検討 / 抗変異原性と抗腫瘍効果について
	冷蔵加工食品の加熱殺菌と農産具材の軟化低減技術 (地独)北海道立総合研究機構 食品加工研究センター 応用技術部応用技術グループ 主査 小林 哲也 氏

② 一般技術研修

	内容	実施日	参加人数
1	HACCPの基礎とプラン作成演習	令和6年7月30日	18
2	味香り分析セミナー ～客観的データを活用した商品の特徴の見える化とデータ活用法について～	令和6年9月12日	21
3	農水産加工製品の品質保持・向上に向けた食品添加物の有効活用と食品アレルギー対策	令和6年10月8日	22
4	3Dデータ活用セミナー 3D設計解析システムについて	令和6年10月24日	16
5	3Dデータ活用セミナー 3Dプリント支援ソフトウェアについて	令和6年10月24日	16

③ 個別技術研修

企業等の多様かつ技術的な課題に対応するための個別研修を実施した。

- ・開催回数 43回
- ・開催日数 53日
- ・参加人数 65名

(6) 技術情報提供事業

日本工業規格（JIS）の最新版、工業技術に関する専門図書、国内研究機関・大学・大手企業等の研究報告書、定期刊行物等を図書資料室に開架し、一般の利用に供した。

(7) 広報等事業

北海道立工業技術センターの積極的な活用を図るため、次の事業を実施した。

名称	実施日等	内容
「HITEC ニュース」をWEBサイトに掲載	令和6年6,9,12月 令和7年3月	活動報告を中心とした技術情報の提供
「北海道立工業技術センター業務報告」の発刊	令和6年5月	令和5年度業務内容の報告 発行部数：1,000部
「北海道立工業技術センター研究報告」の発刊	令和6年12月	令和5年度研究開発の報告 発行部数：500部
メールマガジンの発行	随時	研修会の開催などセンターの活用等に関する情報の提供 登録数：約800アカウント

公3 地域産業活性化支援事業

1 中小企業等支援

(1) 市場販路開拓等事業

① 市場販路開拓等事業

ア 地域技術・製品市場販路開拓事業

A 食の大商談会 インフォメーションバザール in Tokyo 2024

インフォメーションバザールにブースを設置し、地域企業等の市場開拓・販路拡大の支援を行った。

- ・会期 令和6年9月4日～9月5日
- ・会場 池袋サンシャインシティワールドインポートマートビル（東京都）
- ・入場者 約2,700名

【出展内容】

企業名	主な出展品
(株) アイケーフーズ	じゃがじゃがニューラスク、コロネのパイシュー 他
函館米穀(株)	鮮度保持道産ななつぼし、ふっくりんこ 他
(株) 小原	シマエナガのホワイトガラナ 他

B 第38回北海道技術・ビジネス交流会（ビジネス EXPO2024）

ビジネス EXPO において「はこだてビジネス交流ゾーン」を設置し、地域企業等の市場開拓・販路拡大の支援および工業技術センターが関わった企業との共同研究の成果等を紹介した。

- ・会期 令和6年11月7日～11月8日
- ・会場 アクセスサッポロ（札幌市）
- ・入場者 21,261名

【出展内容】

企業名	主な出展品
上加冷機工業(株)	J-COOL Master200 食品用急速凍結機 J-COOL Master100 食品用急速凍結機
(株) アクトシステムズ	蓄電システム、通信変換器、USB-シリアルコンバータ
函館酸素(株)	食添用アルゴンガス エスプーマ
(株) グローバルコミュニケーションズ	デジタルペンソリューション 施設予約サービス
(株) ハンダ	コンクリート用防水・止水剤
北海道立工業技術センター及び財団紹介ブース	地域資源を活用した特徴のある企業製品の紹介、北海道立工業技術センター成果品の展示 他

C スーパーマーケット・トレードショー2025

地域企業が首都圏市場における販売ルートの開拓や販路の拡大を図ることを目的に、出展企業に対し、ブース代等の支援を行った。

- ・会期 令和7年2月12日～14日
- ・会場 幕張メッセ 全館
- ・入場者 77,305名

【出展内容】

企業名	主な出展品
(株) アイケーフーズ	おつまみチーじゃが
カドウフーズ (株)	北海道のちいさい焼きいも
(株) 五島軒	函館スーシュカ
昭和製菓 (株)	4種のチーズケーキ
(有) タカハシ食品	鱈子と昆布の旨煮
(株) 竹田食品	しめにしん
(株) 天狗堂宝船	ジャパニーズプロテインバー各種
道南食品 (株)	北海道キャラメル
函館米穀 (株)	函館育ちふっくりんこ
(株) 丸善納谷商店	おいしく粘るとろろ昆布
(株) 三海幸	北海道ミルクとイチゴ
山栄食品工業 (株)	味わいチーズポラッキー
(株) 吉田食品	ほろゆきクッキー
友栄北海道かいこうマーケット (株)	たこ天かまぼこ

イ 出展支援事業

函館地域の企業等が展示会等に参加して自社の有する技術シーズをPRし、販路拡大を図るとともに、需要の開拓に必要な情報や他社の技術動向に関する情報等を収集するなどの活動に対し、助成を行った。

・実績 3件

	企業名	実施日	展示会の名称	助成額
1	カドウフーズ (株)	令和6年9月4日 ～9月5日	食の大商談会インフォメーションバザール in Tokyo 2024	92千円
2	(株) エビスパック	令和6年9月4日 ～9月5日	食の大商談会インフォメーションバザール in Tokyo 2024	102千円
3	昭和製菓 (株)	令和6年9月4日 ～9月5日	食の大商談会インフォメーションバザール in Tokyo 2024	108千円

ウ デザイン支援事業

A デザインセミナーおよび個別相談会

商品デザインやパッケージデザインに対する地域企業の意識向上を図ることを目的として、函館地域の製造業等の経営者や従業員などを対象に、以下のセミナーおよび個別相談会を実施した。

名称等	実施日	実施概要	参加人数
デザインセミナー	令和7年3月6日 14:00～16:00	ブランディングのすすめ方 「デザイン・知財を活用した販路開拓・拡大セミナー」 講師 函館デザイン協議会会長 (株) ガーデン代表取締役 佐賀 吉憲 氏	41名
個別相談会	令和7年3月6日 16:00～17:00	函館デザイン協議会会長 佐賀 吉憲 氏 函館デザイン協議会副会長 掛端 秀行 氏	4社

2 函館市産業支援センター運営管理

(1) 函館市産業支援センター指定管理者事業

函館市より指定管理者の指定を受け、研究開発型企業及び新規事業を展開する企業を育成する施設である函館市産業支援センターの維持運営を管理業務仕様書に基づき実施するとともに、設置目的に資する事業を実施した。

① 施設の利用状況（令和7年3月末現在）

ア 入居者状況

（単位：件）

施設名	入居者数	入居者数		
		継続	新規	退去
インキュベータールーム	4	4	0	0
インキュベーターファクトリー	4	0	4	1
プレインキュベータールーム	4	3	1	0

イ 施設利用状況

マルチメディアルーム利用者数	767人
視察等来館者数	254人

② 設置目的に資する事業

ア 入居者の募集、入居相談、PRに関すること

起業・創業を志す方を対象として、施設に利用促進や各種事業の開催についてPR等を行った。

- A ホームページでの入居者募集PR
- B 新聞報道および広報誌等への掲載
- C ポスター掲示による入居者募集PR

配布先	配布先件数	枚数
関係機関・施設	2機関	8

- D 入居相談 21件

イ 入居者・支援者の交流促進

A インキュベーション・マネージャー等による起業化支援

インキュベーション・マネージャー、工業技術センター研究員、支援センター職員が、入居者からの相談に対応し、技術的アドバイスや補助事業等の情報提供を行った。なお、入居者懇談会および創業支援関係団体連絡会議については、3月の開催を予定していたが、各参加予定者の都合がつかず開催できなかったことから、次年度については、開催時期および参集者等の再検討を行ったうえ開催したい。

B 起業化・創業支援セミナーの開催

函館地域の起業・創業に関するスキルアップや意識醸成を目的として、下記のセミナーを開催した。

	名称等	実施日	実施概要	参加人数
1	プレゼンテーションスキルアップセミナー	令和6年6月6日	プレゼンテーションスキルアップセミナー 講師：(株)ライズ・マーケティング・ジャパン 代表取締役 笹谷 努 氏	19名
2	新規事業セミナー (共同主催)	令和6年6月25日	起業から成長軌道に乗る秘訣とは？ 人を生かす経営の総合実践	76名

	・北海道中小企業家同友会函館支部 ・函館市・北斗市・七飯町	プレミアホテル-CABIN PRESIDENT - 函館	～商品の企画・開発・販売・サポート、 全ては「人」～ 講師 (株)現場サポート 代表取締役社長 福留 進一 氏	
3	創業スキルアップ講座 全8講座	令和7年2月17日 ～令和7年3月 13日	創業予定者が必要とするスキルの習得を目的とする「経営、販路開拓、人材育成、財務」に関する連続講座を実施した。	のべ 127名
4	ビジネスプラン作成 スクール	令和6年8月28日 ～令和7年2月5 日	新規創業や新規事業化を図るとき必要となる事業計画の作成方法を学ぶ講座およびグループワークによる事業計画の作成支援を実施した。	25名

※詳細は、起業化促進事業 創業者の育成を参照

C 起業化・創業支援に係る相談

創業・起業を志す方に対し、インキュベーション・マネージャーや起業化支援専門員が随時個別相談を受付けた。

- ・相談件数 87件

D ビジネスマッチングの促進

第38回北海道技術・ビジネス交流会（ビジネス EXPO 2024）において、函館市産業支援センターとして、入居企業とともに「はこだてビジネス交流ゾーン」に出展した。

- ・会期 令和6年11月7日～11月8日
- ・会場 アクセスサッポロ（札幌市）

【函館市産業支援センター関係企業出展内容】

企業名	主な出展内容
デジタル・インフォメーション・テクノロジー(株)	企業情報ポスターの展示

(2) 産業支援センター財団独自事業

函館地域の新事業創出・起業化を支援するため、セミナー等を通じて、函館市産業支援センターのインキュベータールームやファクトリーのPRを行うほか、各支援機関等と連携して創業者への支援を行った。

ア 創業・起業に関する無料の窓口相談・個別相談

- ・随時、相談者に対応

イ 各支援機関等との連携

- ・相談者が活用できる制度等の紹介（北海道中小企業総合支援センター、中小機構北海道本部、日本政策金融公庫函館支店などと連携）
- ・他地域の関係機関との連携・交流

3 創業者への育成・支援

(1) 起業化促進事業

① 創業者の育成

ア 創業支援セミナー

創業意識の向上・醸成及び創業予定者が必要とする基礎知識の習得を目的として、下記のセミナーを開催した。

名称等	実施日	実施概要	参加人数
プレゼンテーション スキルアップセミナー	令和6年6月6日	プレゼンテーションスキルアップセミナー 講師：(株) ライズ・マーケティング・ジャパン 代表取締役 笹谷 努 氏	19名
新規事業セミナー (共同主催) ・北海道中小企業家同友会函館支部 ・函館市・北斗市・七飯町	令和6年6月25日 プレミアホテル-CABIN PRESIDENT - 函館	起業から成長軌道に乗る秘訣とは？ 人を生かす経営の総合実践 ～商品の企画・開発・販売・サポート、 全ては「人」～ 講師：(株) 現場サポート 代表取締役社長 福留 進一 氏	63名

イ 創業スキルアップ講座

創業予定者、創業間もない経営者等を対象に、創業するとき必要とする経営、販路開拓、人材育成、財務等のスキルを習得することを目的とした講座を以下のとおり実施した。

- ・講座実施数 8講座
- ・延べ受講者数 127名
- ・修了者数 30名

	テーマ名	実施日	実施場所	講師	受講者数
1	創業集中講座「事業チャンスを見つけ方」、「強みと機会を活かした商品・サービス」、「マーケティング戦略」、「資金計画について」	令和7年 2月17日 ～18日	工技C 会議室	(株) イーベック 代表取締役 土井 尚人 氏	22名 25名
2	人材確保と定着のしくみづくり	令和7年 2月28日	工技C 会議室	(株) インテレッジ 代表取締役 高橋 正也 氏	23名
3	売上向上の考え方	令和7年 2月28日	工技C 会議室	(株) インテレッジ 代表取締役 高橋 正也 氏	22名
4	DXの推進とAIの活用	令和7年 3月4日	工技C 会議室	(株) ミュートネット 代表取締役 市村 淳一 氏	20名
5	働く人の能力を引き出す健康経営	令和7年 3月13日	工技C 会議室	大鎌電気(株) 代表取締役 大鎌 幸雄 氏	15名

ウ ビジネスプラン作成スクール

創業者や創業予定者、新規事業に取り組む企業等を対象に、創業や事業推進に必要な事業計画の作成方法を習得することを目的に以下のとおり実施した。

- ・実施期間 令和6年8月28日～令和7年2月5日
- ・受講者数 27名
- ・修了者数 24名

日 程	内 容		
令和6年8月28日 ～ 令和7年2月5日 (全11講座)	第1講座から第10講座まで、毎回、座学(経営、販売方法、人材育成、財務など)を受講後、グループディスカッションによるビジネスプラン作成実習を行った。	令和7年2月5日 15:00～18:30 (第11講座) プレミアホテル -CABIN PRESIDENT - 函館	● ビジネスプラン発表会(プレゼンテーション実習) 参加者数58名 【最優秀賞】ネオローカルライフ(株) ● 修了式
講師・ アドバイザー	所 属 等	氏 名	
	エスイーシー・シープレックス(株) 営業顧問	小野 雅晴 氏	

	(株) ミュートネット 代表取締役	市村 淳一 氏	
	(株) I like IT 代表取締役	荒木 明美 氏	※講師のみ
	大鎌電気(株) 代表取締役	大鎌 幸雄 氏	
	とのさき社会保険労務士事務所	外崎 晋也 氏	
	中小企業診断士	番場 啓 氏	
	中小企業診断士	小野 雅弥 氏	
	函館大学 地域連携センター長 専任講師	佐藤 浩史 氏	
	日本政策金融公庫函館支店 融資課長	藪下 毅 氏	
	函館地域産業振興財団総務企画部産業支援課 Sr-IM	金澤 透	

② ネットワークによる創業支援

ア 創業相談窓口の設置

起業・創業相談に対応する専門員および創業支援アドバイザーを配置し、函館市産業支援センターの無料相談窓口等と連携して、随時創業相談を受け付けた。

イ 創業者のフォローアップ

企業の経営面、技術面等の課題を解決するため、インキュベーション・マネジャー（IM）からの助言とともに、他の支援機関や制度の紹介などを行った。

・相談数69企業、個人（延べ210回）

ウ 函館きぎょう支援ネットワークによる事業化相談会
1回

エ 支援者ネットワークとの連携

起業家を効率よく支援するための知識の習得や人的ネットワークを形成するため、日本ビジネス・インキュベーション協会の認定IM等との交流会等に参加した。

名称	実施日	内容	参加人数
北海道IM連携促進会運営委員会出席（札幌市）	令和6年6月13日	・起業化支援に関する情報収集、各地域の支援事例に関する情報交換を行った。	1名
東北IM連携協議会ワークショップ in 奥州参加（奥州市）	令和6年7月18日～19日	・東北地域IMと交流を図るとともに、函館市産業支援センター卒業企業の販路開拓支援を行った。	1名

③ 創業バックアップ助成金

函館地域において、新たに創業する者及び創業から5年以内の者（企業）の優れた事業計画に対し資金助成を行うため、審査を経て助成した。

助成金交付式開催日

- ・日 時 令和6年9月2日 14:00～15:00
- ・場 所 北海道立工業技術センター 会議室
- ・採択数 3件

	採択者名	認定事業名	助成額
一般枠 (北斗市)	いかさるサイクルHK 剣持英明 氏	自転車を活用した観光振興事業および交通安全教育事業	1,000千円
若者枠 (函館市)	SOURIRE CHOCOLAT 松田琴絵 氏	Bean to Bar Chocolate および洋菓子製造販売事業	1,000千円
若者枠 (函館市)	松下文太 氏	内装仕上げ材 AI レコメンドシステムの開発および販売	1,000千円

4 地域産業活性化

(1) 広域的産業立地支援事業

函館地域経済牽引事業促進協議会の事務局を担い、企業誘致PRのため、ホームページからの情報発信と首都圏等で開催された展示会へ出展し、函館地域の産学官連携の現状、特に北海道立工業技術センター機能を活用した技術的な支援体制などの立地優位性をアピールした。

展示会名	開催期間	開催場所
企業立地フェア 2024	令和6年5月15日～5月17日	東京ビッグサイト
メッセナゴヤ 2024	令和6年10月30日～11月1日	ポートメッセなごや
OFF TOKYO×函館・旭川	令和7年2月17日	EZOHUB TOKYO

【収益等事業】

収1 受託等事業

- (1) 受託研究開発事業
当財団が有する知識、技術及び施設を活用して、地域企業等から研究開発業務を受託し、委託先企業の技術高度化を図った。
 - ・受託件数 1件

- (2) その他受託事業
当財団が有する知識、技術及び施設等を活用し、地域企業の経営基盤強化等に資する業務として、次の1件を受託した。
 - ・函館市専門家派遣型IT・ロボット等活用支援事業における企業への診断助言業務

- (3) 知的財産活用促進事業
令和6年度は、保有特許権等の実施契約が1件あった。

財団運営課題について

日銀は3月19日の金融政策決定会合で、政策金利を0.5%程度に据え置くことを決定しました。アメリカの関税政策やサプライチェーンの分断など不確実性が高い状況にあり、長期金利の上昇にはまだ時間がかかると予想されております。当面、日本国債、地方債及び一般担保付社債等による従来型の基金運用だけでは、十分な事業資金の確保を見込めない状況にあります。

こうした事業資金の大幅な不足状態に対し、これまでは事業規模の縮小や積立資金の取り崩しで対応してきていますが、これにも限りがあり、対策が必要な状況となっております。

長期的に持続可能な事業運営体制を構築するため、次の取り組みを継続して進めました。

① 基金の効率的な運用

これまでの基金運用方法の検討結果に基づき、基金の適正な維持管理を図りつつ、財産管理運用規定の範囲内で効率的な運用を行いました。

② 新たな外部資金事業の獲得及び収益事業の拡充

研究開発から販路開拓、創業支援まで一貫して支援できる財団の強みを生かし、新たな外部資金事業の獲得に努め、農林水産省のオープンイノベーション研究・実用化推進事業の「輸出促進を目指した生鮮水産物の品質制御と鮮度の“見える化”技術の実用化」に取り組んだほか、日本中央競馬会の畜産振興事業として「国産チーズ・ブランド化事業」に取り組みました。

一方、保有する知的財産権の利用促進、実施許諾による実施料収入増を図りましたが、事業収入の拡充には至りませんでした。

③ 賛助会員の増強

令和6年度は新規入会が3社、退会が6社で3社の賛助会員の減となり、計144社及び308万円の収入となり、前年度から4万円の収入増となりました。

④ 事業の安定的継続に向けた関係自治体との検討

道南地域の発展に資する使命のもと、公益財団法人として各種事業を安定的に継続するため、北海道及び道南地域自治体とその財源・方策等について具体的な検討を進めております。

附属明細書について

令和6年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書を作成しない。

令和7年5月

公益財団法人函館地域産業振興財団